

ガイドライン改訂の背景

- 令和元年度のMaaS関連データ検討会(全4回)における議論を踏まえ、「MaaS関連データの連携に関するガイドライン Ver.1.0」を令和2年3月に公表。
- 公表後、令和2年度においては、以下の検討会や研究会を開催し、MaaSで用いられる可能性のあるデータについて、個別に具体的な議論を実施した。
 - ✓ 公共交通機関のリアルタイム混雑情報提供システムの導入・普及に向けたあり方検討会
⇒「公共交通機関のリアルタイム混雑情報提供システムの導入・普及に向けたガイドライン(バス編)」
 - ✓ 鉄道の混雑緩和に資する情報提供のあり方に関する勉強会
 - ✓ ユニバーサル社会におけるMaaSの活用方策についての研究会
- また、MaaSとの関連が深いスマートシティ分野においても、令和2年9月に「スーパーシティ/スマートシティ相互運用性の確保等に関する検討会 最終報告書」や、令和2年3月「スマートシティリファレンスアーキテクチャ ホワイトペーパー」等が示され、データ連携の方向性が定められたところである。
- これらの議論を踏まえ、よりニーズの高いデータ項目の具体化や、データ連携の方向性の統一化等を行う必要があると考えられることから、「MaaS関連データの連携に関するガイドライン」の改訂(Ver.2.0)について、検討を行うこととした。

改訂にあたって主に参照した資料

- 公共交通機関のリアルタイム混雑情報提供システムの導入・普及に向けたガイドライン(バス編)(令和2年9月)
⇒カメラ画像等の利用に係る個人情報保護対応、バスのリアルタイム混雑情報(車両)の見直し 等
- ユニバーサル社会におけるMaaSの活用方策について(令和3年2月)
⇒バリアフリーに関わるデータ項目の追加、内容見直し 等
- スーパーシティ/スマートシティ相互運用性の確保等に関する検討会 最終報告書(令和2年9月)
- スマートシティリファレンスアーキテクチャ ホワイトペーパー(令和2年3月)
⇒データの仲介に係る方式に関する記載の追加 等